

厚生労働省
令和2年度

女性医療職等の働き方支援事業 実施報告書



大分大学医学部附属病院 女性医療人キャリア支援センター
Career Path Support Center for Medical Staff

厚生労働省 令和2年度 女性医療職等の働き方支援事業実施報告書

目次 contents

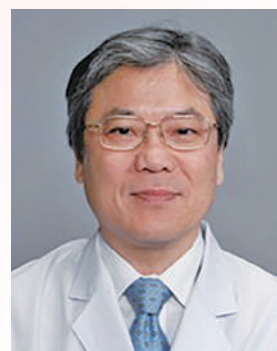
ごあいさつ	1
1. 厚生労働省 令和2年度	
女性医療職等の働き方支援事業実施体制	5
2. 厚生労働省 令和2年度女性医師等	
女性医療職等の働き方支援事業実施計画	5
3. 活動実績	
(1) 職場理解に係る取り組み	8
(2) 相談窓口等に係る取り組み	14
(3) 勤務体制に係る取り組み	20
(4) 診療体制に係る取り組み	23
(5) 保育に係る取り組み	25
(6) 復職支援に係る取り組み	30
(7) その他の取り組み	33
4. 女性医療人キャリア支援センター概要と運営体制	39

病院長ごあいさつ

大分大学医学部附属病院長

三股 浩光

Hiromitsu Mimata



大分大学医学部附属病院は県内唯一の大学病院であり、高度な医療人育成機関および特定機能病院として、県民の皆様にご高度で安心安全な医療を提供する役割を担っています。そのため地域医療に貢献できる高い意識を持つ人材育成は不可欠であり、女性医療人のキャリアを支援することは大変重要なことと考えております。

本院では平成26年度より、女性医療人キャリア支援センターを設置し、女性医療人のキャリア継続支援のための環境整備を行ってまいりました。平成30年度に厚生労働省「女性医師等キャリア支援モデル構築事業」の採択を受け、ライフイベントに係る女性医師や女性医師を取り巻く課題について、その抽出と解決に向けて取り組みました。それにより、女性のキャリア継続の取組みに一定の成果を得ることができましたが、まだまだ意識改革など続けていく必要がありました。

今年度再び、厚生労働省「令和2年度 女性医療職等の働き方支援事業」に採択され、女性医師に限らず、医師・看護師・薬剤師・コメディカルを対象に男性医療人も含めた病院全体での働き方改革と環境整備、意識啓発に取り組みました。地域の基幹病院として、地域で活躍する医療人の両立支援策として県全体に展開することによって、地域医療における人材確保・人材育成に大きく寄与する支援を行ってまいりました。

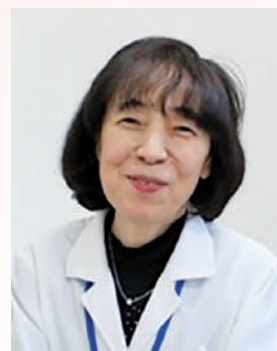
今後、これまでの取組みを活かし、プロフェッショナルな医療人が活躍できる環境の整備へと取り組みを継続させ、地域に根差した病院として貢献できるよう務めて参ります。ご理解とご協力の程よろしくお願いたします。

センター長ごあいさつ

大分大学医学部附属病院
女性医療人キャリアセンター
センター長

松浦 恵子

Keiko Matsuura



女性医療人キャリアセンターは医療人のワークライフバランスや安心して仕事を継続できるための支援や復職にむけた取組みを行っています。今年度からセンター長を拝命し、新しい2人の副センター長や新しいコーディネーターとともに、女性医療人のキャリアアップにむけて、また男性医療人の支援を行ってまいりました。

特に今年度は、厚生労働省 令和2年度 女性医療職等の働き方支援事業を推進いたしました。具体的には、リーダー研修を開催し、熊本大学付属病院 後藤先生による講演会を行いました。キャリアサポートブックの改訂では、新たに加わってくださった病院や医局のご協力により、拡充したバージョンを作成することができました。中田副センター長を中心とした男性医療人パパの会（男性医療人パパの会（Penguins））では、オンラインで講師の先生のご指導のもと、料理のスキルアップをはかることができました。また中田先生は全国的にも数か所で講演し、Penguinsの普及活動が行われました。医学教育センター 中川教授のご指導のもと、医学部生に対する「キャリアに関する問題解決実践型授業」がオンラインで実施されました。また、立山副センター長を中心として、女性医師交流会やキャリア相談会が、それぞれオンラインで実施されました。コーディネーターを中心として相談業務も行われました。コロナ禍であり、制約下の事業でしたが、パパの会に参加してくださる医療人の方々、交流会等に協力してくださる医療人も増え、皆様方のご理解とご協力によりさまざまな取組みを行うことができましたこと、心より感謝申し上げます。

これからさらに、次世代を含め、女性男性関わらず一人でも多くの医療人がキャリアを継続できるように、また地域医療のお役に立てるよう努めていく所存です。これからも女性医療人キャリア支援センターへのご支援、ご理解をいただけますようお願いいたします。

副センター長ごあいさつ

女性医療人キャリア支援センター
副センター長

中田 健

Takeshi Nakata



事業報告書をご覧いただきありがとうございます。女性医療人キャリア支援センター 副センター長 中田健と申します。

本年度は、どの分野もそうであったように当センターもコロナウイルスによる影響をもろに受けました。予定されていた一番のイベントであった日本医師会の男女共同参画の大分での全国大会は、延期となりほっとしたような、残念だったような気持ちですが、来年度以降予定されていますので、改めて取り組みたいと考えております。

さて、本年度から、当センターは、大きな変化を迎えました。センター長が、藤木教授から松浦副学長に交代し、耳鼻咽喉科の立山医師と中田が副センター長に就任するという大幅な組織変更があり、将来を見据えて次の世代へと迎えていくというセンター長の強い意思を感じ、喜びとともにしっかりと努めなければならないという気持ちです。

そんな、コロナウイルス禍にも関わらず、例年行ってきた次世代の学生への布石である中川教授主催の医学部4年次の「キャリア教育」をオンラインで、zoomを使って例年通りのグループワーク、先輩医師からのメッセージを発信できたことは、対応する学生の能力があってこそですが、当センターもオンラインに対応できた一番の成果だと思っております。

一方で、緊急事態宣言からの休校などもあり、共働きの家族などどうしているのだろう、何かセンターでできることはなかったのかなど、心配もありましたが、この辺りは、振り返るべきかもしれません。

また、「男性医療人パパの会PENGUINS」の活動は、学内の多くの先生方のご協力をいただき6年目の活動となりました。本年度は、昨年ご講演を頂き、大変好評であったパパ料理研究家滝村さんを講師に迎え、アンコール企画「オンライン料理教室」を開催しました。30数名を超える皆様に、料理参加、視聴と言うスタイルで参加いただきました。また、料理教室の前に、私自身が、ミニ講座として「ノンテクニカルスキル」の特にコミュニケーションについて、講演を行いました。

また、本年度のペンギンズ公認バッヂを松浦センター長デザインで作成しております。来年度以降に、このバッヂをどんどんつけて頂いて、共働き家庭の支援、そして、教授陣にも広めて、一人でも多くイクボスになって頂きたいと考えております。

日本は、ジェンダーギャップが大きいとその話題は尽きませんが、皆様のお力添えによって、微力ながらお役に立ちたいと考えております。今後とも皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

副センター長ごあいさつ

女性医療人キャリア支援センター
副センター長
センター長

立山 香織

Kaori Tateyama



2020年度より中田先生と一緒に副センター長を務めております、2003年卒の耳鼻咽喉科・頭頸部外科医、立山香織です。

医学部5年生のとき、ふと思いました。両親は他県に住んでいて、急なサポートが望めない状況で、「もし将来、子育てしながら仕事をしたい思ったとき、どの科を選んでもできるものだろうか。」と。出身大学である大分大学で仕事をするのと、結婚を視野に入れ始めた頃でした。そして医師になり、結婚して子供を授かったとき、嬉しいと同時に自分の医師としてのキャリアは全く見えなくなり不安も覚えました。様々な悩みと併走しつつ、未だ模索中ではありますが、気付けば同じような岐路に立つ後輩たちを暖かく見守る立場となりました。

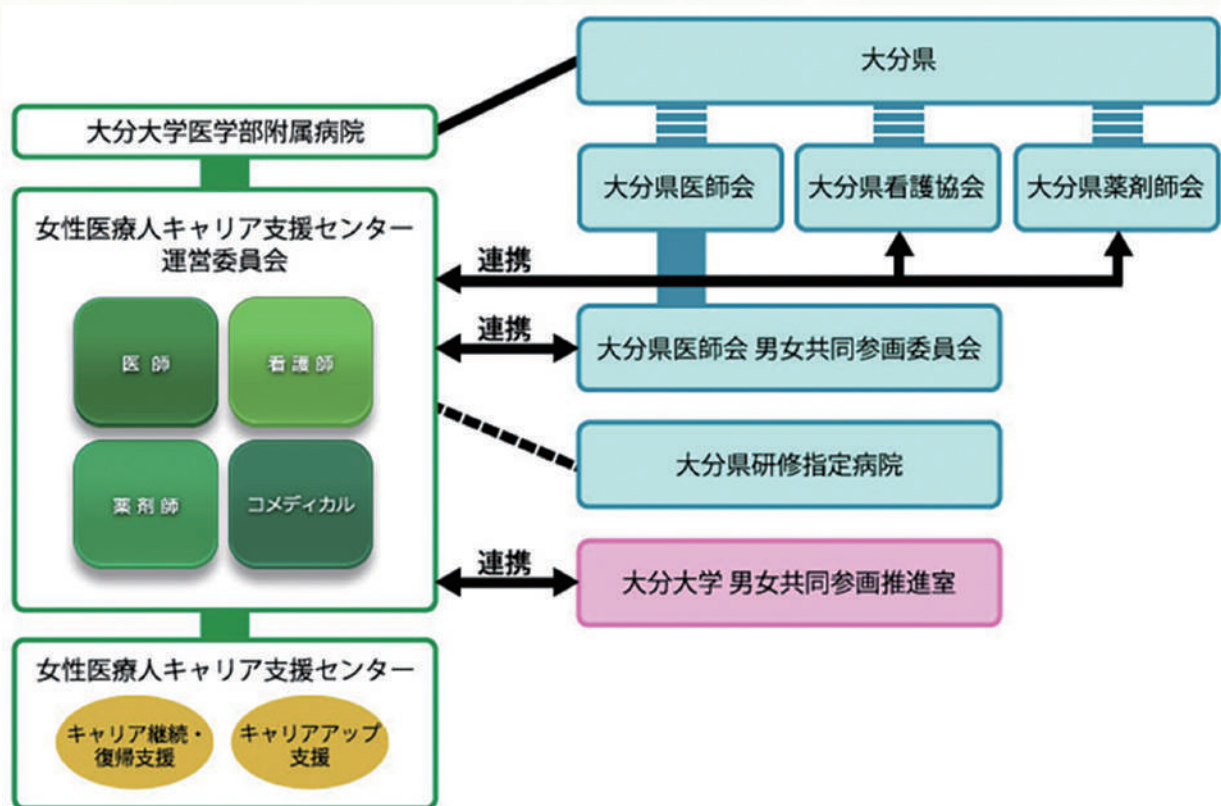
私が医師になった頃と変わり、忙しい中でも自然と「ワークライフバランス」を考えた働き方をしている方が男女ともに確実に増えました。働くことについて考えるのは、一つの学問になるくらい難しいテーマであり、「キャリア教育」として大学のカリキュラムにも含まれるようになっていきます。

これまで、本センターでの活動を通して、様々な診療科や世代の考え方、働き方を垣間見ることができました。自分自身、「キャリアとワークライフバランス」の意味を考えながら、過去に歩んできたライフステージとキャリアの道を振り返り、その先に行く先輩の姿を見ることができました。

本年度は様々な活動が、オンラインに置き換わり、初の試みのイベント形式が増えましたが、オンラインやオンデマンドを取り入れることは、メリットも沢山ありました。女性医療人キャリア支援センターは、どのような状況になっても変わらず、医療に関わるすべての女性、男性へ、ライフステージとキャリアに関する悩みや情報の共有、制度の提案を行える場を提供していきたいと思っております。

1

厚生労働省 令和2年度女性医療職等の働き方支援事業実施体制



2

厚生労働省 令和2年度女性医療職等の働き方支援事業実施計画

令和2年度女性医療職等の働き方支援事業実施団体公募要項の内容を踏まえ、以下の通り実施計画を策定しました。

1. 職場理解に係る取り組み

- ①リーダー研修の開催
- ②男性医療人パパの会（Penguins）の開催

2. 相談窓口等に係る取り組み

- ①コーディネーターによる研修・復職支援
- ②キャリア相談窓口の開設

3. 勤務体制に係る取り組み

女性医師採用サポートコースを設定

4. 診療体制に係る取り組み

診療科毎の復帰支援プログラムを共通様式にて作成
キャリアサポートブックのバージョンアップ

5. 保育に係る取り組み

- ①院内保育園及び病児保育の情報提供
- ②マタニティ白衣・スクラブの貸出

6. 復職支援に係る取り組み

遠隔学習システム

7. その他の取り組み

- ①キャリアパス相談会
- ②キャリア教育
- ③女性医療人キャリア支援センター News Letter の発行

女性医療職等の働き方支援事業実施計画

● 1. 職場理解に係る取り組み

1-① リーダー研修の開催

職場の上司を中心に現場の課題を共有し解決策を考え職場の理解を促進する為のワークショップを開催する。これまでに行った女性医師支援の成果と課題の両方向から問題点を抽出しつつ、研修会を通じて得られた知見を自施設内多機関のみならず他施設と連携して有効活用する。

1-②男性医療人パパの会（Penguins）の開催

平成27年度よりスタートしたイクメンパパの会（通称 Penguins）では、子育てをしながら働く男性医療人の情報交換の場として開催している。男性の育休取得推進の為の情報提供や、男性の育児と仕事との両立における問題点あるいは解決策について話し合う場を設ける。

● 2. 相談窓口等に係る取り組み

2-①コーディネーターによる研修・復職支援

コーディネーターを配置し、女性医師等のキャリア支援のための相談、復職研修申し込みの受け付け及び復職受入調整を行う。

2-②キャリア相談窓口の開設

キャリアカウンセラーによるキャリア相談窓口を設け、広くキャリア相談に応じる。

● 3. 勤務体制に係る取り組み

復帰を目指す女性医師等を対象としたオーダーメイドのキャリア支援制度として、現在の大学病院の医師定員数に含まれず、勤務時間を自由に設定できる「女性医師等採用サポートコース」を設定し、常勤復帰ができるようサポートする。

● 4. 診療体制に係る取り組み

女性医師の復職に対しての確実なバックアップ体制ができるよう、診療科毎の復職プログラムを設定する。またプログラムについて会議で共有する。

復職プログラムを含むキャリアサポートブックをバージョンアップする。

● 5. 保育に係る取り組み

5-① 院内保育園及び病児保育の情報提供

保育・病児保育に関わる情報提供、院内保育園の大学院生の利用ができるよう利用範囲の拡大を行う。

5-② マタニティ白衣・マタニティスクラブの貸出し
出産前の女性医師への支援として、妊娠初期から臨月まで着用可能なマタニティ白衣の貸出を行う。

● 6. 遠隔学習システム

e-ラーニングシステムを用い、医療安全や感染症対策、臨床手技などの講義の動画を配信し、休職中でも研修を行えるようなシステムを構築する。

e-ラーニングシステムから休職者への情報提供を行う。

● 7. その他の取り組み

7-① キャリアパス相談会

進路や将来についての相談ができる、医学部5年生女子と大分大学医学部附属病院に勤務する女性医師との交流会を行う。

7-② キャリア教育

学生が卒業後のキャリア形成や医師になってからのワークライフバランスをロールモデルの話やグループワークを通じて考えられる講義を行う。

7-③ 女性医療人キャリア支援センター News Letter の発行

センターの情報提供や活動報告のため発行を行う。

3 活動実績

(1) 職場理解に係る取り組み



① リーダー研修の開催

リーダー研修会

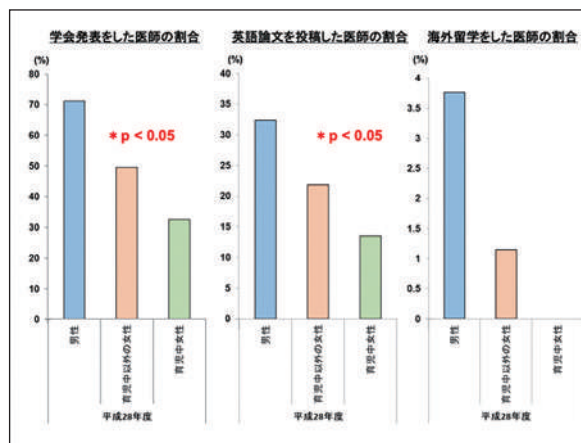
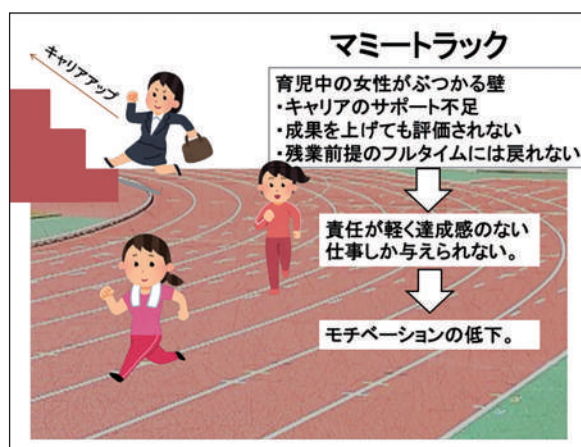
2021年3月4日、医学部教授会構成員全員を対象に「リーダー研修会」を行いました。女性医療人の上司となる教授に対し、キャリア継続やキャリアアップに対する理解と意識啓発を目的としたものです。今回、熊本大学病院地域医療支援センター後藤理英子先生が「女性医師のキャリア継続・構築に対する上司の理解の重要性」というタイトルで、オンラインで講演してくださいました。後藤先生は2019年12月女性医師の活躍顕彰である西予市と日本医師会、県医師会主催 おイネ賞の全国奨励賞を受賞された新進気鋭の女性医師です。

熊本大学病院では、熊本県委託「クローバーの会（熊本県医療人キャリアサポート）」を設置し熊本県における医師の離職抑制、復職支援、男女共同参画を進め、さまざまな取り組みを行っています。その結果、過去3年間に出産を経験した医師の離職が減り、当直可能な医師やフルタイム勤務が増えたそうです。ただし、責任が軽く達成感のない仕事しか与えられないというマミートラックの問題、学会発表・英語論文投稿・海外留学をした医師の割合は、育児中の女性では有意に低いなど課題もあることを、データを交えて提示されました。そのうえで、組織内キャリア発達には挑戦的な仕事を成し遂げた「心理的な成功」体験が必要であり、そのために内発的欲求とそれに対応する挑戦的な仕事を与えられること、心理的安全性を担保できる実力者（上司）が直接的に昇進を支援し、能力や実績を証言・保証することが大切である、今後は家族介護など女性男性に関わらず、全員に関わる問題であると教えてくださいました。大分大学医学部のリーダーに向けた素晴らしいメッセージであったと感じました。

- 日 時：2021年3月4日（木）14時
- 場 所：大分大学医学部大会議室
- 参加者：大分大学医学部教授 42名
- 講 師：熊本大学病院

地域医療支援センター 後藤 理英子先生

後藤理英子先生講演会の資料より



心理的安全性のつくりかた



② パパの会（通称 PENGUINS）の開催

第6回男性医療人パパの会 Penguins



「オンライン料理教室 & ノンテクニカルスキルミニ講座」

生きていく上に必要不可欠な食事。料理のスキルは生きるスキル。

そして今や医療安全には必要不可欠なノンテクニカルスキルも医療人として必須のスキル。

「なぜ、「はい、わかりました。」では、医療事故はなくなるのか？」

料理教室と医療安全、異色のコラボレーションから、生きるため、医療人としてのスキルを学ぶ！

< 講師紹介 >

株式会社ピストロパパ代表取締役



パパ料理研究家

滝村 雅晴 氏

食育、男女共同参画、ワークライフバランス、働き方改革を、男性の家事料理参画から推進する。日本で唯一のパパ料理研究家として活動。



女性医療人キャリア支援センター副センター長



医療人パパの会 Penguins 代表

腎臓内科 中田 健 先生

腎臓内科の傍ら男女共同参画やワークライフバランスにも取り組むパピドクター。医療に必要なノンテクニカルスキルについてミニ講座を行います。



【日 時】令和3年2月21日（日）

16：30～ ミニ講座（中田先生）15分程度

16：45～ 料理教室（滝村先生）60-90分程度

どちらもオンライン（Zoom）のみの開催

【参加費】無料

【対 象】大分大学内教職員、学生

※ミニ講座のみ 料理教室のみの参加、

医療人以外の方でも参加OKです

メニューは「レストランのオムライスとオーロラソースかけサラダ」です！

オンラインですので、ぜひご自宅のキッチンよりパソコンやスマホでご家族とご参加ください。

※視聴のみをご希望の場合、YouTube 限定URL をお送りします。

ご参加いただいた方に
大分大学 × Penguins
オリジナルデザインバッジ
をプレゼントします！



2月18日（木）まで

下記メールアドレスにお申込みください。
参加URLをお送りいたします。

<お問い合わせ・お申込み>

大分大学医学部附属病院 女性医療人キャリア支援センター

Tel: 内線 5715（または 097-586-5715）月～金 8：30～17：15

Eメール：carsupport@oita-u.ac.jp



第6回男性医療人パパの会 (Penguins)

『オンライン料理教室とノンテクニカルスキルミニ講座』

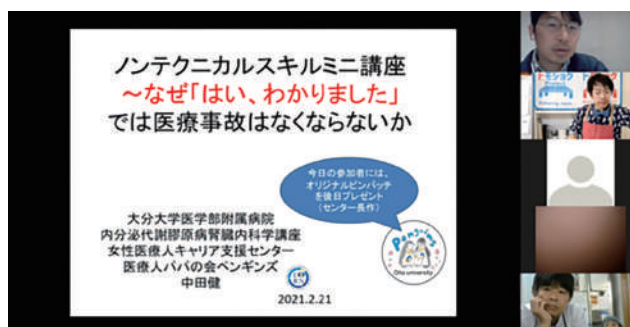
女性医療人キャリア支援センターは、女性支援に限った活動のみならず、男女共に働きやすい職場で、共にワークライフバランスについて考えたい、という思いから、男性医療人パパの会（通称：ペンギンズ）を平成27年度よりスタートしました。例年は、大分大学挾間キャンパスで働く男性医療人が集まって、「育児の分担」や「有給取得」、「男性の育児休業」などのテーマでトークしていましたが、今年度は初の試みで、2021年2月21日、パパ料理研究家滝村氏による料理教室をメインとしたZoomでのオンライン集会を開催しました。

「料理教室と医療安全、異色のコラボレーションから、生きるため、医療人としてのスキルを学ぶ！」ことを目的として、医師、医療事務、医学部学生が自宅のキッチンからZoom上に集まり、中田先生による医療安全ミニ講座付き、料理教室を楽しみました。

中田先生の医療安全ミニ講座では、医療におけるノンテクニカルスキル、すなわちコミュニケーションやチームワークの重要性を、事例動画を用いて一緒に見ている子どもにも分かりやすく伝えていただきました。

料理教室のメニューは「レストランのオムライスとオーロラソースかけサラダ」。親子で、楽しくクッキングする微笑ましい様子が見られました。

中田医師によるノンテクニカルスキルミニ講座



Zoomでオンライン料理教室

各自自宅のキッチンから料理をする様子



親子で作ったオムライスとサラダ



美味しいオムライスできました！



参加者へのアンケート（Google フォーム）

パパの会Penguins 参加者アンケート

この度は第6回医療人パパの会Penguinsにご参加いただきありがとうございました。
今後の参考とさせていただきますアンケートへのご協力をお願いいたします。
全部で、5問です。

***必須**

年齢をお答えください。*

10代
 20代
 30代
 40代
 50代
 60代
 その他: _____

職業を選んでください。*

学生
 医師
 看護師
 薬剤師、医療技術職員
 事務職員
 その他

誰と参加しましたか*

自分のみ
 家族と一緒に
 子どもと一緒に
 その他

開催時期・時間帯・時間についていかがでしたか？* 1ポイント

平日の夕方がよい。
 土日がよい。
 30分程度がいい
 1時間程度がいい
 その他: _____

今日の講演の感想をお聞かせください。* 1ポイント

とてもよかった
 よかった
 どちらともいえない
 ややまいちだった。
 いまいちだった。
 その他: _____

今年はオンラインでしたが、いかがでしょうか？* 1ポイント

今後もオンラインがいい
 （コロナが終息後）対面式がよい
 ハイブリッドがいい。

次回以降のペンギンズへの要望、男性医療人、医療人パパへの支援で希望されることなど、何かありましたらご記入下さい。 1ポイント

回答を入力

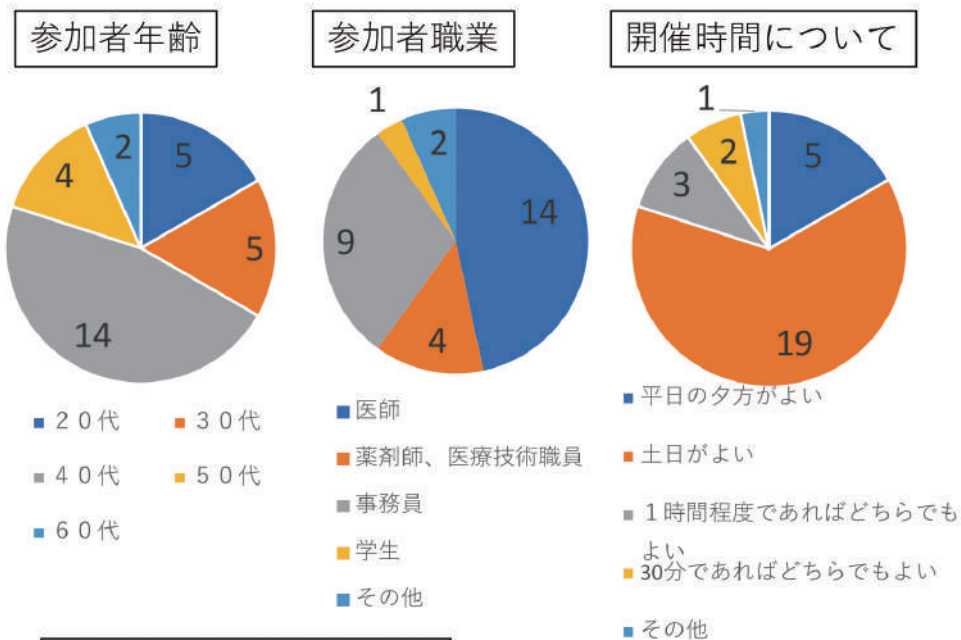
送信

Google フォームでパスワードを送信しないでください。
このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・プライバシーポリシー

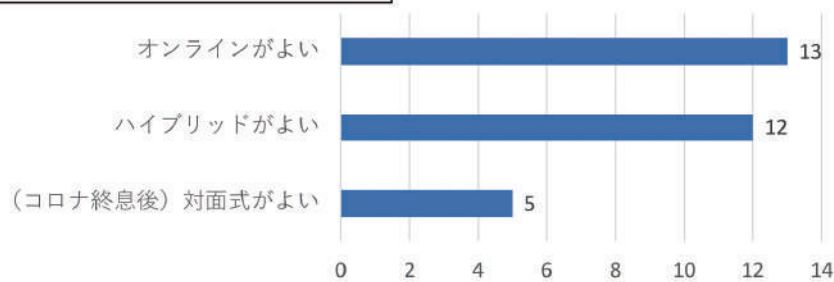
Google フォーム



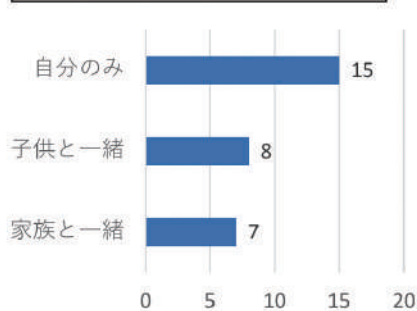
パパの会アンケート集計結果 (n=30)



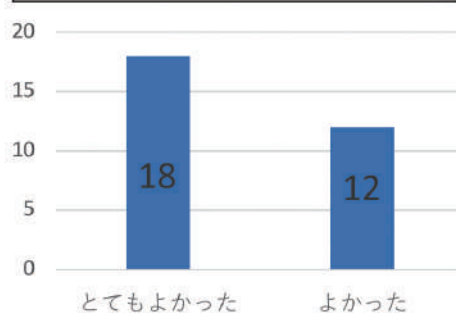
オンライン開催について



誰と参加しましたか？



今回の講演の感想について



- パパの会へ初めて参加させていただきましたが、今回のような親子で力を合わせ楽しみながら参加できる場合は、親と子の絆も深まるような気がしていいなと感じました。
- ディスカッションであれば、結成当初のような座談会。今回のようなイベントであれば、パパさんパワーを生かした親子ピクニック（山登り）とかドッジボール大会など親子で楽しめる企画もいいのでは？
- 医療人パパを対象とすると、他の料理や家事全般（洗濯、掃除のコツなど）も含めて、いわゆる雑用の多い家事にも楽しみを見つけられるような内容は本企画の聴衆に興味を持たれると思います。

(2) 相談窓口等に係る取り組み



① コーディネーターによる復職支援

「女性医師交流会」の開催

女性医師等のキャリア支援や復職研修の相談を受けるため、コーディネーターを配置しました。コーディネーターが橋渡しとなって女性医師が交流できるように、2021年2月9日、女性医師交流会を開催しました。

同じ病院に勤めていても所属する科が違ってお話する機会はなかなかありません。女性医師同士の集まりの中で、働き方に関する情報交換や相談、ロールモデルを見つけるきっかけになればと思い、この会は毎年開催されています。

例年、対面の集会形式で行っていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年度はオンライン（Zoom）で開催しました。パソコンの前に集まった女子10名（最年少は0歳）で、「進路の決め手は？」、「留学はどんなメリットがある？」、「妊娠中の働き方、子育て中の働き方」などキャリアやライフをテーマにトークしました。





女性医師交流会



同じ病院に勤務していても所属する科が違となかなか話をする機会はありません。
また、他科の医師であっても、お話をしてみたい存在の方がいるものです。

少しでも女性医師の声を拾い上げることができて助けになれば、また、お話しするきっかけを作ることができればと思い、この会は毎年開催されています。

こんな状況から今年はオンラインですが、この場を絶やさないようにするためひっそり開けてますのでどうぞお立ち寄りください。

開催日時：2021年2月9日（火）

17時30分から 1時間程度

オンライン（Zoom）開催

途中参加、途中退室でもOKです！

【トークテーマ】

- ①悩める研修医の皆さんに参考になるかも。先輩医師の進路の決め手は？
 - ②留学はどんなメリットになる？
 - ③妊娠中の働き方。子育て中の働き方
- キャリアやライフに関するテーマについて、トークしたいと思います。

参加者との交流を図りたいと思いますが、チャット機能を用いた発言や質問も可能です。

ご参加くださる方は、2月4日（木）までに
下記メールアドレスにお申し込みください。
参加URLをお送りいたします。

トーク参加予定の女性ドクター

医学生物学	松浦恵子先生
耳鼻咽喉科	立山香織先生
産婦人科	溝口千春先生



<お問い合わせ・お申込み>

大分大学医学部附属病院 女性医療人キャリア支援センター

TEL: 内線 5715（または 097-586-5715） 月～金 8:30～17:15

Eメール: carsupport@oita-u.ac.jp

女性医師交流会参加者アンケート

<開催時期についてはいかがでしたか>

- ・よかった
- ・学会の少ない時期で良かったです。
- ・もっと広報できればと思った。

<開始時間についてはいかがでしたか>

- ・保育園の迎え時間で参加できなかった Dr. がいたが、この時間しかないと思うので 17:30～が良いと思う。
- ・業務後というのは仕方のないことかもしれませんが、ただ、限られた時間のなかで子育てをしながら仕事をしていると、この時間の参加は難しいと感じました。今回は幸い移動前で業務を外れていたのゆっくり参加できましたが、お迎えの時間寸前でギリギリの中で入院の管理、カルテ、サマリ、後輩の指導などを優先していくと交流会（自分のため）の優先度はどうしても下がってしまうというのが実際の気がしました。
制度上難しいのかもしれませんが、業務内の時間で30分ほどという方が参加しやすいかしないかと個人的には思います。
- ・もっと他の人が参加できるような時間帯が選べたらと思いました。
- ・ちょうどよかった（もう少し遅くてもよい 18:00～）

<今回はオンラインでの開催でしたがいかがでしたか>

- ・他の病院からも参加できてよかった。
- ・多施設で、移動時間もかからないというのはメリットでした。顔を合わせてお話ししたいなども思いました。
- ・良かったです
- ・難しかったが時間が決まっているので、少し短く感じた。

<またこのような会があれば参加していただけますか>

- ・はい（同意見複数名あり）
- ・時間が合えばぜひ参加したいです。もし可能でしたら教授や医局長、病棟医長などのお偉いさんたちがこの会のことを知っていてくれると参加はよりしやすいです。

<このような企画があれば、と思うものがありましたらご記入ください>。

- ・季節に1度くらいの頻度でフランクに集まれる会（ランチ会、飲み会など）があれば良いなと思いました。（科関係なくフリーに話せる機会）

② キャリア相談窓口の開設

センターホームページ内に本事業のページを開設しました。

メールでの問い合わせをできるようにしました。もちろん、支援センター職員への直接の面談も可能です。

令和2年度相談対応

対面3件、電話・メール相談3件

<内容>

- ・短時間医員として勤務時に適用される保険について（2名）
- ・男性の育休取得について（1名）
- ・各診療科の体制について問い合わせ（1名）
- ・妊娠中の体調について（1名）
- ・育休後のキャリアアップ、スキルアップについて（1名）



大分大学医学部附属病院

女性医療人キャリア支援センター

Career Path Support Center for Medical Staff



センター概要



ごあいさつ



支援内容



活動紹介



広報物



男性医療人パパの会
PENGUINS



女性医師等キャリア支援
モデル構築事業



CONTACT



CONTACT

以下のフォームにご記入のうえ、送信してください。
学外の方にもご利用いただけます。

ご不明な点や、お急ぎの際はお電話でご連絡ください。

TEL/FAX：097-586-5715(内線：5715)

受付時間：平日 9:00 ~ 17:00

お問い合わせ

内容 (必須)

- お問い合わせ 来訪予定 ご意見 その他

所属 (必須)

お名前 (必須)

フリガナ (必須)

メールアドレス (必須)

確認のためにもう一度 (必須)

内線番号または電話番号 (必須)

お問い合わせ内容など ※来訪予約の方は、来訪希望日時・来訪目的をご記入ください

送信確認(必須)

- 内容を確認して送信する

送信

(3) 勤務体制に係る取り組み



女性医師採用サポートコース

大分大学医学部附属病院では、定員外の増員分として「女性医師等採用サポートコース」を設定し、職場復帰を目指す女性医師のために、勤務時間を柔軟に設定できるようにしました。今年度は内科の2名の女性医師が本コースを利用しました。

女性医師等採用サポートコース募集のお知らせ

大分大学医学部附属病院女性医療人キャリア支援センターでは、医師の臨床現場定着及び復帰支援を目的とした取り組みを進めています。今年度(令和2年度)の復帰支援の取組みの一環として、医局の定員数外の非常勤としてフレキシブルに就労する女性医師の雇用が可能となりました。出産・育児などのために休職中で復帰を目指している方、大分大学医学部附属病院に勤務されている女性医師で、将来的に常勤での勤務を目指し勤務時間を増加されたい方を対象に女性医師等採用サポートコースの募集をいたします。ご希望の方は別紙エントリーシートを提出ください。

○求める人材

大分大学医学部附属病院でご自身の専門性を生かし、非常勤の医師として勤務することを希望する者

○職務内容

ご自身の専門とされる診療科と相談の上、職務内容は決定

大分大学医学部附属病院女性医療人キャリア支援センターのイベント等の運営協力

○募集要項

・募集人数 若干名

・処遇

【身分】パートタイム医員

【保険】なし

【勤務日数・勤務時間】応相談(週4時間~週16時間)

【給与】大学の規定による

○応募資格

育児をされている女性医師

○出願書類

エントリーシート

母子手帳(写)等お子さんの年齢が証明できるもの。

○その他

本コースに採用された場合は、別途総務課人事係へ採用に必要な書類を提出していただきます。

【お問合せ】

大分大学医学部附属病院 女性医療人キャリア支援センター

Tel:097-586-5715 Fax:097-586-6203

mail:carsupport@oita-u.ac.jp

女性医師等採用サポートコース

エントリーシート

申出年月日 令和 年 月 日

(ふりがな) 氏名					
連絡先	電話番号:				
	メールアドレス:				
	希望する連絡方法 および 連絡の時間帯:				
入局先		卒業大学・ 卒業年度			
専門医/認定医の有無	<input type="checkbox"/> 有 名称() <input type="checkbox"/> 無				
大学院所属の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	学位の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無		
現在までの経歴 (医学部卒業以降) ※出産日および産休・育休 取得期間もご記入ください ※継続利用の方は省略可					
復帰希望診療科	科				
復帰希望年月日	令和	年	月	日	より勤務開始
希望する勤務態様	過当たりの勤務時間		0.00	※下記勤務時間を入力すると自動計算します 時間	
曜日別希望勤務 (休憩時間を除いて記入)	自動計算しますので、〇〇:〇〇の形式で入力して下さい。 ↓ 例) 8:30~12:00, 13:00~17:15 ※休憩を除いて記入				
	月		~		(0:00)
	火		~		(0:00)
	水		~		(0:00)
	木		~		(0:00)
	金		~		(0:00)
		total			(0:00)
(補足)6時間以上勤務の方は必ず休憩を取って下さい。					
女性医師等採用サポートコースによる採用が必要な理由					
受入先	診療科名:				
	所属長名:				
					印

※なお、サポートコースを利用される先生方は、女性医療人キャリア支援センターの活動にご協力いただきます。

復職支援プログラムの作成

女性医師等が育児休業や離職等から臨床の現場に復帰する時は、キャリア継続や復帰後の働き方等に不安を感じるものです。どのような手順で復帰できるのか、復帰支援プログラムをあらかじめ提示しておくことで不安が軽減され復帰がスムーズになると考えられます。そこで、診療科ごとの復帰支援プログラムを統一された様式で作成し、共有できるようにしました。この復帰支援プログラムは、各診療科の標準のプログラムとして復帰を希望される女性医師等に合わせたオーダーメイドプログラムの元になります。

記入例

臨床復帰のためのプログラムになります。復帰開始から①～③の期間及び期間の区切りは自由に設定していただけます。また様式も、合わせてご変更いただけます。作成いただいたプログラムは、標準プログラムとし復帰希望者にあわせて、オーダーメイド化をしていただくようになります。

別紙2

〔消化器センター-内科 復帰支援プログラム〕

復帰支援プログラムの経過月 →

業務大項目	個別項目	① プログラム開始から1ヶ月		② 2～12ヶ月		③ 1年以後	
		○=実施 ×=未実施	指導下or独立	○=実施 ×=未実施	指導下or独立	○=実施 ×=未実施	指導下or独立
全科共通	山外来	(○)	独立	(○)	独立	(○)	独立
	一般外来	(○)	独立	(○)	独立	(○)	独立
②病棟	入院患者受け持ち	(×)	指導下	(×)	指導下	(○)	指導下
	救急対応(日勤)	(×)	指導下	(×)	指導下	(○)	独立
科別プログラム							
科別プログラム	内視鏡検査	(○)	指導下	(○)	独立	(○)	独立
	上部消化管内視鏡	(×)	指導下	(○)	指導下	(○)	独立
	下部消化管内視鏡	(×)	指導下	(×)	指導下	(○)	指導下
	ERCP	(×)	指導下	(○)	指導下	(○)	指導下
	超音波内視鏡	(×)	指導下	(×)	指導下	(○)	指導下
内視鏡治療	(×)	指導下	(×)	指導下	(○)	指導下	
食道静脈瘤縮小・硬化療法	(×)	指導下	(×)	指導下	(○)	指導下	
粘膜切除(ESD)	(×)	指導下	(○)	指導下	(○)	指導下	
大腸ポリペクトミー	(×)	指導下	(○)	指導下	(○)	独立	
肝疾患処置	肝生検	(×)	指導下	(○)	指導下	(○)	独立
RFA	(×)	指導下	(×)	指導下	(○)	指導下	

検査名や処置等をご記入ください

業務大項目で行う内容をご記入ください

該当月に個別項目を実施される場合は○、実施されない場合×
○をつけた項目には、指導下か独立かの記入をお願いいたします。

〔〇〇〇科 復帰支援プログラム〕

復帰支援プログラムの経過月 →

業務大項目	個別項目	プログラム開始から()ヶ月		()～()ヶ月		()ヶ月以後	
		○=実施 ×=未実施	指導下or独立	○=実施 ×=未実施	指導下or独立	○=実施 ×=未実施	指導下or独立
全科共通							
科別プログラム							
科別プログラム							

*様式は自由に変更していただいて構いません。診療科の実情に合わせてご利用ください。

キャリアサポートブックにも掲載し、今後積極的な活用を目指します。

キャリアサポートブックのバージョンアップ

令和元年度に大分県からの支援により作成したものをさらに今年度拡充しました。ご協力いただいた県内医療機関や医局の数も増えました。今後の大分県地域医療での医師の復帰支援・働き方改革の一助となるように、県内での研修を考える医学部学生、女性医師そして男性医師の方々にも活用していただきたいものです。

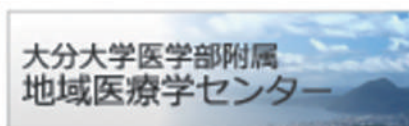
(5) 保育に係る取り組み



1 院内保育園及び病児保育の情報提供

学内の保育サービスについての情報を提供しています。

挾間キャンパス敷地内に、0歳児～6歳児までが対象のなかよし保育園（定員45名）と、病児保育室ひだまりが設置されており、教職員の仕事と子育ての両立を支援しています。センターホームページに保育園のリンクがあり、入園や利用に必要な情報収集にお役立ていただいております。



院内保育「なかよし」

平成 18 年度開室

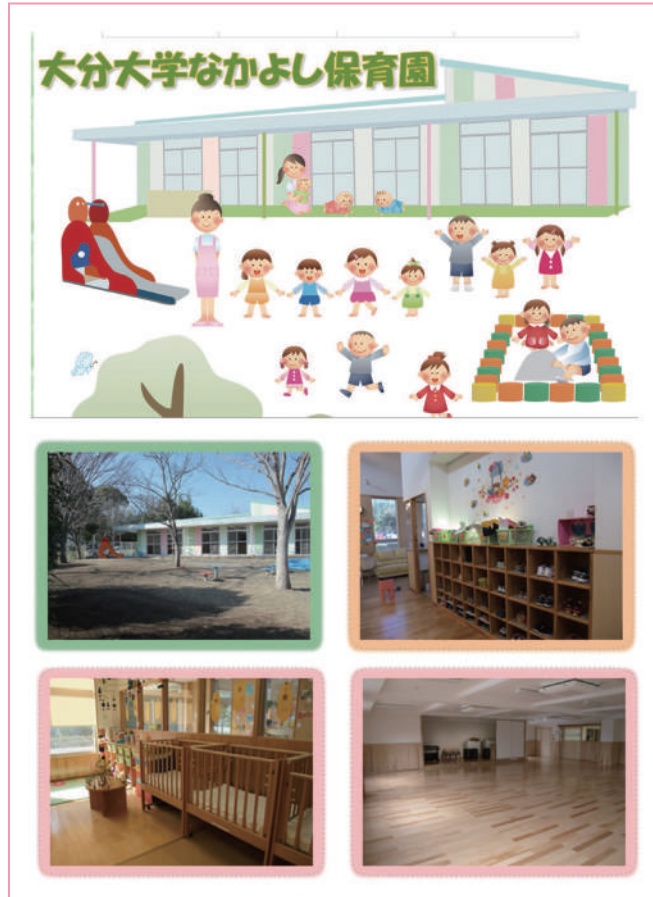
定 員：45 名

対象児：2 ヶ月から小学校就学前まで

開室日：月曜日～土曜日

時 間：7 時 30 分～ 19 時 00 分
(20 時まで延長可)

利用者：教職員



病児保育「ひだまり」

平成 25 年 6 月開室

定 員：4 名

隔離室：2 部屋

対象児：6 ヶ月から小学校 3 年生

開室日：月曜日～金曜日

時 間：7 時 30 分～ 17 時 30 分

利用者：教職員・大学院生
学部生（条件有）

担 当：看護師・保育士

その他：原則事前診断が必要
事前診断無しでも OK の場合有
疾病制限は無



② マタニティ白衣・スクラブの貸出

出産前の女性医師支援として、妊娠初期から臨月まで着用可能なマタニティ白衣・スクラブの無料貸出を行いました。

☆女性医師等キャリア支援モデル構築事業☆



マタニティ白衣 マタニティスクラブ レンタルします



白衣

ウエストの調節ができるので
妊娠初期から臨月まで対応できます。
お腹が目立たないデザインです。



スクラブ

お腹が膨らむにつれ楽に伸びるリブ
や動きやすいスリットなど、妊婦さん
に嬉しい工夫がたくさん！
同色のジョガーパンツも一緒に貸し
出せます。



お問い合わせ・お申込み (メールまたは内線電話にてお尋ねください)

**大分大学医学部附属病院
女性医療人キャリア支援センター
内線 5715**

mail: carsupport@oita-u.ac.jp



マタニティ白衣貸出 利用申込書

マタニティ白衣貸出しのお申し込みを頂きましてありがとうございます。
必要事項をご記入のうえ、学内便、メールまたはFAXにてご提出ください。

申 込 年 月 日	
ふ り が な 氏 名	
住 所 〒	
電 話 番 号	*産休取得後も連絡が取れる電話番号をご記入ください
メールアドレス	
出 産 予 定 日	年 月 日 予定
利 用 予 定 期 間	年 月 日 ~ 年 月 日まで (*返却予定日となります)
勤務先診療科名	
希 望 サ イ ズ	白 衣: Sサイズ ・ Mサイズ スクラブ: Mサイズ ・ Lサイズ

*ご利用期間終了後はクリーニングをしてご返却をお願いいたします

*ご利用期間終了後は2週間以内に貸出し意欲をお持ちいただくか、下記までお送りください。
(送料はご負担下さい)

*また、貸出期間を延長される場合は、お早めに貸出窓口までご連絡ください。

<p>【連絡先・貸出窓口】 〒879-5593 大分県由布市医大ヶ丘1丁目1番地 大分大学医学部附属病院 女性医療人キャリア支援センター Tel : 097-586-5715 Fax:097-586-62 Mail: carsupport@oita-u.ac.jp</p>
--

--	--	--	--	--	--

利用者の声

この度はマタニティスクラブを貸していただきありがとうございました。

妊娠後期には急激にお腹がでてきて、通常のスクラブは窮屈に感じてきたときでありましたので、大変助かりました。

今は、第一子のことで頭がいっぱいですが、今後第二子を授かる機会があれば、また利用させていただこうと思います。

本当にありがとうございました。



(6) 復職支援に係る取り組み



遠隔学習システム (e-learning)

休職中でも研修を行えるように遠隔学習システムを作成しました。

コンテンツは、医療安全管理セミナー、ライフ・ポートフォリオに分かれています。

医療安全管理セミナーは、産前・産後休暇又は育児休業取得者の受講負担軽減のため、年2回の必須受講のうち1回分の受講を e-learning で受講することが可能です。今年度は新型コロナウイルス感染症により、対面での受講の代わりとして本システムが活用され、女性男性を含む多数の医療人のべ 1685 名が利用しました。

大分大学医学部附属病院 女性医療人復帰学習支援プログラム (e-Learning) 登録募集案内



女性医療人のスムーズな職場復帰をサポートします！



結婚、育児、介護など、様々なライフイベントが原因で臨床を離れた女性医療人の復職支援、現役の女性医療人の離職防止を目的としたものです。
e-learningを通じて、医師のキャリアや臨床についての情報提供をしています。
内容は「産休・育休復帰支援プログラム」「医療プログラム」に分かれています。
復職を希望されるみなさまの登録をお待ちしています。



産休・育休等復帰者支援プログラム

復職後のキャリアについての内容
・ライフ・ポートフォリオという考え方
・働き方の3つの志向
・家庭とキャリア等々



医療プログラム

医療についての知識や手技について
・救急時の対応
・画像診断等々 (医療プログラムについては現在準備中です)



是非、ご登録ください!!!

ご登録・お問い合わせはこちらから

<http://www.med.oita-u.ac.jp/carsupport/>

大分大学医学部附属病院
女性医療人キャリア支援センター

TEL 097-586-5715
e-mail carsupport@oita-u.ac.jp

- ・利用される方の出身大学、年齢、所属、地域を問いません。
- ・医療従事者(薬剤師、看護師など医療資格保有者)、研修医の方も視聴いただけます。
- ・お好きな時間、場所で、何度でも、学習することができます。
- ・登録・視聴はすべて無料です。

医療安全セミナー

第6回医療安全管理セミナー



ライフ・ポートフォリオ

Index Prev Next

ワーキングマザー社員のキャリアの描き方 ライフ・ポートフォリオ研修 ～産休・復職者編～

Copyright © Edusainment Planet Co. Ltd.

目次

はじめに

第1章 私たちの時代のキャリア 私たちの時代のキャリア 本研修の流れ	第3章 働き方の3つの志向 ワークライフ・バランス 働き方の3つの志向 ビジネス重視型 ライフ重視型 バランス変動型 第3の選択肢としてのバランス変動型	第5章 キャリア面談にむけて 状況パラメーターでこの先の変化を考える キャリア面談シート
第2章 ライフポートフォリオという考え方 時間の使い方が、自分の人生をつくる 自分の時間の使い方（現状） 自分の時間の使い方（10年後） 時間という財産 長期的な視点で時間配分を設計する意識 ライフ・ポートフォリオとは 人生のフェーズをイメージする	第4章 家庭とキャリア 家庭というチームのフォーメーション 家庭内のフォーメーションを考える フォーメーションのバリエーション 多様化する家庭支援サービス 5年後、10年後のフォーメーションを考える 家族の理解について 30年間の変化を振り返る	おわりに まとめ 充実した人生に向けて

(7) その他の取り組み



① キャリアパス相談会



The poster features a purple banner at the top with the title 'キャリアパス相談会'. To the right of the banner is a red flower icon with the text '女子学生限定'. Below the banner, there is a decorative green vine with various flowers and a blue bird. The main text is centered and includes the date and time, the format (ZOOM), and a list of participating female doctors. At the bottom, there is a contact information box with a light orange background.

キャリアパス相談会

女子学生
限定

進路や研修先、恋愛や結婚、子育てとキャリア、
専門医、留学・・・などなど
これからたくさんの選択をしていく皆さん、
先輩女性医師はどうやって決めたんだろう？
どんな働き方してるんだろう？
ちょっとお話、聞いてみませんか？

日時：2021年3月16日（火）
18時から19時くらい
ZOOMで開催します

自宅からでも、大学からでも
お友達と一緒に好きな場所からご参加ください♪
気軽なフリートーク形式です。

＜参加予定の女性医師＞ 急な都合により不参加、別の先生が参加される可能性もあります。
福田智子先生（循環器内科）、児玉望先生（循環器内科）、川崎ゆかり先生（脳神経外科）、
川野奈々江先生（小児科）、島田祐美先生（小児科）、木津有美先生（耳鼻咽喉科）、
立山香織先生（耳鼻咽喉科）、竹野祐紀子先生（呼吸器内科）、高野久仁子先生（血液内科）、
黒澤慶子先生（救命救急センター）、岡本真実子先生（産婦人科）、荒川光江先生（消化器内科）

3月12日（金）までにお知らせください。
参加URLをお送りいたします。

＜お問い合わせ・お申込み＞
大分大学医学部附属病院 女性医療人キャリア支援センター
TEL: 内線 5715(または 097-586-5715) 月～金 8:30～17:15
Email: carsupport@oita-u.ac.jp

3月16日（火）キャリアパス相談会を開催しました。

参加者：女性医師 12名
学 生 11名

様々な診療科の女性医師12名と、医学部医学科5年生の11名がオンラインで集まりました。進路や研修先、恋愛や結婚、子育てとキャリア、専門医、留学など、これからたくさんの選択をしていく女子学生さんに、少しでも参考になればと思い、女子学生さんからの質問に、一つ一つ丁寧に答えました。

＜質問内容＞

- ・ 子供を産むタイミング、出産後仕事に復帰するタイミング、保育園に預けるタイミングについて

- ・専門医を取るタイミングなど、こうしておけばよかったということはあるか。
- ・出産育児の時期にどれだけ職場を離れることができるのか。
- ・出産育児でキャリア形成に影響の出やすい科はどこか。
- ・親の助けなしでも子育てが可能か。
- ・配属先の病院はどの程度希望を出すことができるのか。
- ・配偶者と勤務先が遠くなった場合、単身赴任ということもあり得るのか。
- ・その場合、育児はどうするのか。
- ・留学などは可能か、時期はいつ頃が適切か。
- ・体力面のキツさをどうカバーしていたのか。
- ・後輩にアドバイスとして、これをしておいたほうが良かったなどはあるか。

<女子学生さんより感想（一部抜粋）>

- ・今回は、このような会を開いていただき本当にありがとうございました。普段はなかなか聞けないお話も多く、大変勉強になりました。今ちょうど研修先や将来の希望科など悩んでいる最中なので、今回のお話をふまえて、将来のことを考えたいと思います。
- ・自分の将来についていろいろと不安があったのですが、今回多くの先生方のお話を聞くことで、改めてキャリアに正解はなくて、働き始めたらきっとなんとかやっていけるんだろうなと思えました。参加させていただけて本当よかったです。先生方の貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

② キャリア教育

「医師のキャリアとワークライフバランスを考える」

2020年11月25日、医学部医学科4年生へキャリア教育を行いました。キャリア教育とは、様々な選択肢のある岐路に立たされた時に、自らのキャリア形成や、ライフイベントとの兼ね合いをどのように選択していくのかを主体的に考えてもらうことを目的としています。

この講義は間もなく臨床実習が始まる4年次を対象に『医師としてのキャリア継続のため、ワークライフバランスの考え方を知るとともに、医師としての多様な生き方があることを学ぶ』ことをテーマに5年前からスタートしました。

プログラムは、先輩医師のアドバイスや体験談を聞かせていただくキャリア講義と、与えられたテーマをもとにシナリオを作成し、ロールプレイを行うグループワークで構成されています。今年はコロナウイルスの影響でオンライン（Zoom）による授業となりました。

例年対面で行っているグループディスカッションやロールプレイですが、Zoomになっても、オンラインに適応能力の高い学生の皆さんは、難なくこなすことができました。

（講義内容の詳細はニュースレター Vol.22 にまとめました。）



グループごとのロールプレイの様子

キャリア教育時間割

時間	内容	担当
9:00	講義説明、アンケート	医学教育センター中川幹子先生
9:15	キャリア教育 先輩医師からのメッセージ①	心臓血管外科 宮本伸二先生
9:35	キャリア教育 先輩医師からのメッセージ②	高度救命救急センター 松成修先生
9:55	キャリア教育 先輩医師からのメッセージ③	産科婦人科 溝口千春先生
10:15	ワークライフバランス ミニ講座	腎臓内科 中田健先生
10:25	グループ討論、発表の説明(例の提示)	中川先生、松浦先生、中田先生
10:30	グループ討論 ・グループごとにキーワードを基 にシナリオを作成し、問題点の解決 策を討論する。	12グループ Zoomにグループごとに入室
12:00	休憩	
13:00	キャリア教育 先輩医師からのメッセージ④	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 立山香織先生
13:20	キャリア教育 先輩医師からのメッセージ⑤	細胞生物学 花田俊勝先生
13:40	発表会(ロールプレイ含)・午前中の 討論で作成した シナリオのロールプレイと、解決策 の発表 各グループ5分	
14:40	講評・総括	松浦恵子先生
15:00	終了	

③ 女性医療人キャリア支援センター News Letter の発行

News Letter Vol. 21

大分大学医学部附属病院女性医療人キャリア支援センター Career Path Support Center for Medical Staff

News Letter 2020.07 Vol. 21

Contents

- ▶ 新センター長、副センター長ごあいさつ
- ▶ 健康科学概論 松浦センター長が講義
- ▶ 大分県医師キャリアサポートブック発行
- ▶ センター移転のお知らせ

ご挨拶

4月よりセンター長に松浦恵子先生、副センター長に中田健先生、立山香織先生の
新体制となりました。

センター長 松浦 恵子
副学長(ダイバーシティ担当)
男女共同参画推進室長
医学微生物学講座 教授

女性医療人キャリア支援センターは、お誕生から5年目を迎えました。働き方改革が求められる中、まだまだ医療人が仕事とワークライフバランスにおいて何らかの問題に直面し、将来への不安を持っている現状があります。医療人のワークライフバランスに向けて何が必要なのか、どうすれば安心して仕事を継続できるのか、離職しないためには、また一時離れていた人がスムーズに復帰できるためにはどんな支援が求められるのかを常に意識し模索してまいりました。そのためにアンケートにご協力いただき、セミナーや交流会、ハバの会などを開催してきました。復職する医療人の方、ハバの会に参加してほめる医療人の方々、交流会等に協力して下さる医療人の皆様も増え、とても心強いです。心より感謝申し上げます。

昨年度までは副センター長として設立からセンターの運営に関わって参りましたが、このたびセンター長に就任いたしました。2名の若い副センター長(立山先生、中田先生)を迎え、また新しいスタッフ(上田さん)も雇任して下さり、新体制の女性医療人キャリア支援センターとなりました。

これからさらに、1人でも多くの声に耳を傾け、次世代の医療人を含め、女性男性関係らず一人でも多くの方のお役に立てるセンターを目指してまいります。これからも女性医療人キャリア支援センターへのご支援、ご理解をいただけますようお願いいたします。

この度、女性医療人キャリア支援センター副センター長を拝命しました。腎臓内科の中田健と申します。何卒よろしくお願い申し上げます。

何卒、女性医療人キャリア支援センターなのに「男性医師」という疑問を持たれる方も、多いかと思えます。

これは本センターが、性別等に関係なく様々な方が働きやすい職場作り、つまりダイバーシティを目指していること、松浦センター長はじめ、前任の宮崎さん森本さんが温かく私を迎えてくれたからにはなりません。

またこれまで、男性医療人ハバの会「PENGUINS(ペンギンズ)」の活動を通して、働くハバのワークライフバランスや育児休職の取得促進などの活動してきました。

厚労省の大学や医師会の先進的な取り組みを視察したり、大分県医師会の男女共同参画委員も務めていただき、現場の意見を医師会に届けたり、全国的な問題点を会議等で聞いていりました。

大学・大学病院、あるいは医師という職業は、特殊な部分もたくさんあり、女性・子育て中の医師が働き続けることのむづかしさは、多々あるかと思えます。それらの問題が、一朝一夕には解決できないことも多いと思いますが、本センターに寄って頂き、長続きして愚痴を聞かせてください。我々は多くの医療人に生の声を届けて頂きたいと思っております。

すぐに解決できないにしても、話を聞いてくれる味方がいるという何らかの支えになるかもしれません。またあなたの声が、未来の誰かを助けることになるかもしれません。是非センターにお寄り頂き、お声を聞かせて下さい。

2020年度より、中田先生と一緒に副センター長を務めていただきます。立山香織(2003卒)です。

医学部3年生のとき、ふと思いました。「もし将来、子育てしながら仕事をしたいとしたとき、どの科を選んでもできるものだろうか。」と。そして医師になり、結婚して子供を授かったとき、嬉しいと同時に自分の医師としてのキャリアは全く見えなくなり不安を覚えました。様々な悩みと併走しつつ、未だ模索中ではありますが、気付けば同じような岐路に立ち着いた人達を多く見守る立場となりました。

私が医師になった頃と変わり、忙しい中でも自然とワークライフバランスを考えた働き方をしている方が男女ともに確実に増えました。働くことについて考えるのは、一つの学問になるくらい難しいテーマであり、「キャリア教育」として大学のカリキュラムにも含まれるようになってきました。

これまで、本センターでの活動を通して、他の診療科や様々な世代の考え方や働き方を垣間見ることができました。女性医療人キャリア支援センターは、今後も医療人に関わるすべての女性、男性へ、ライフステージとキャリアに関する悩みや情報の共有、解決の提案を行える場を提供していきたいと思っております。



Career Path Support Center for Medical Staff

レポート

「健康科学概論」で松浦センター長の講義が行われました

医学教育センター 中川幹子教授が担当する「健康科学概論」でセンター長 松浦恵子教授による「医療人の男女共同参画」の講義が行われました。

健康科学概論は、医学部(医学科・看護学科)1年次を対象に「豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識を有し、人の命と健康を守る医師・看護師としての職責を自覚する」「キャリアを意識し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する」ことを目的に10回の講義で構成されています。

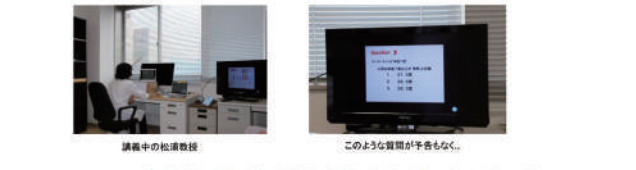
今年度はコロナウイルス感染防止対策の影響から、6月からの開催となりました。オンラインでの講義となったため、毎年授業の最後に実施されていたグループ討議、全体発表会は残念ながら取りやめとなりました。

6月12日(金)に行われた今年度5年目となる松浦教授の講義には、163名の学生が参加しました。中には開始1時間前からスタンバイしていた学生もいたそうです。

授業は事前に行った意識調査をもとに「男女共同参画」「ワークライフバランス」「ポジティブ・アクション」「イクボス」「女性活躍推進法」など、10のキーワードについて語が遣られた。その中で大分大学医学部附属病院における当センターや男女共同参画の取組についても紹介されました。

また講義中、moodleを用いて回答する質問が用意されており、3問全てへの回答が必要であるため、参加した163名の学生は最後まで集中した授業となりました。

意識調査の最後に「男女共同参画について思うこと、自身の将来のキャリアについて不安なこと、してほしいこと」に記入されていた意見が紹介されました。「得志、結婚、出産後も仕事を継続したいが、仕事と育児を両立できるか不安」「男性が手伝うという概念を根絶してほしい」「環境が早く整備してほしい」など医療の進歩に伴っての不安や思いから多くの意見があり、1年次からでも将来のビジョンを強く意識していることが知ることができました。



お知らせ

大分県医師キャリアサポートブックを作成しました

昨年度実施した複雑支援のアンケートにご協力いただいた県内医療機関および県内のキャリアカウンセラー体制を取りまとめた「大分県医師キャリアサポートブック」を作成いたしました。

ご希望の方は、女性医療人キャリア支援センター(内線5715またはcarsupport@oita-u.ac.jp)までご連絡ください。

女性医療人キャリア支援センター移転のお知らせ

女性医療人キャリア支援センターは、4月より管理棟1階学務課前 男女共同参画推進室内に移転しました。



女性医療人キャリア支援センター

NEWS LETTER

Vol.22
2021.2

編集・発行局
大分大学医学部附属病院
女性医療人キャリア支援センター
〒87-0365-3715
E-mail: career@med.u-oita.jp
http://www.med.u-oita.jp/grip/support

医学部4年生へ「キャリア教育」が行われました

この講義は間もなく臨床実習が始まる4年次を対象に「医師としてのキャリア経験のため、ワークライフバランスの考え方を知らるとともに、医師としての多様な生き方があることを学ぶ」ことを目的に5年前からスタートしました。プログラムは、先輩医師のアドバイスや体験談を聞かせることでキャリア講座と、与えられたテーマをもとにシナリオを作成し、ロールプレイを行うグループワークで構成されています。今年はコロナウイルスの影響でオンライン(ZOOM)による授業となりました。

キャリア教育とは
様々な選択肢のある岐路に立たされた時に、自らのキャリア形成や、ライフイベントとの兼ね合いをどのように選択していくのかを主体的に考えてもらうことを目的としています。



医学部4年生 中川千尋先生 (精神科)

当日のスケジュール 2020.11.25

時間	内容	担当
9:00	講義開演、アンケート	中川千尋先生
9:15	キャリア教育 先輩医師からのメッセージ①	心臓血管外科 宮本伸二先生
9:35	キャリア教育 先輩医師からのメッセージ②	高度救急センター 松成 啓先生
9:55	キャリア教育 先輩医師からのメッセージ③	産科婦人科 瀧口千尋先生
10:15	ワークライフバランス ミニ講座	産科婦人科 中田 健先生
10:25	グループワーク 発表の準備 (発表の指示)	中川先生、松成先生、中田先生
10:30	グループワーク-グループごとにキーワードを基にシナリオを作成し、問題点の解決案を打撈する。	12グループ
12:00	休憩	当日 Zoom にグループごとに入室
13:00	キャリア教育 先輩医師からのメッセージ④	耳鼻咽喉科・顔面外科 立山香織先生
13:20	キャリア教育 先輩医師からのメッセージ⑤	細胞生物学 花田俊勝先生
13:40	発表会 (ロールプレイ等)・午前中の討論で作成したシナリオのロールプレイと、解決案の発表 各グループ5分	松成啓先生
14:40	講評・総括	
15:00	終了	

ワークライフバランスミニ講座



中川千尋先生 (女性医療人キャリア支援センター)

中川先生が新人の時は「医師はいつ呼ばれても駆けつけて対応できることが当たり前」と思っていたが、時代が変わり、今の時代にはそうなくなったと感じるそうです。
「自分自身の健康を管理できないと患者さんに対し害を及ぼしてしまう可能性がある。休む勇氣、ストップする勇氣が極めて大事。ワークライフバランスがしつかりしていないと家族も不幸になってしまふ。自分のやりたいことを見失わずに使えるものは使い、頼れるものは頼りながら自分自身を大切にすることが最終的に患者さんや家族を守ることに繋がっていくのではないかと」とワークライフバランスの大切さを感じました。

先輩医師からのメッセージ

小室色香先生 宮本伸二先生
趣味のイラストや、キャリアシートをイメージしたスライドを活用してご自身のキャリアを紹介された宮本先生。「地産地消心臓血管外科医」を目指したきっかけや、産後の覚悟を用いながら、困難な場面をどのように乗り越えたかお話しされました。また大分大学医学部附属病院内の心臓血管外科は女性が多く(これは全国的にも珍しいこと)、スキルアップやキャリアプランを視野に入れた海外留学の例も紹介され「心臓血管外科」は忙しいが、バランスはいろいろ取り方がある。仕事も生活も全力を尽くしてほしいとお話しされました。

産科婦人科 瀧口千尋先生
【科】「結婚」「妊娠・出産」「サブスペシャリティ」というキャリアにおける4つの「選択」を行う経歴の中で「転機」となった場面や、子育てをしながら仕事をやる母親の1日についてお話をいただきました。【現実として】男性医師に比較して女性医師は遠征しがたが、遅れがらだが、独身、結婚、妊娠、出産、育児には個人の価値観と選択の自由があり、折り合いをつけて両立するのが「これからの女性医師の働き方」ではないだろうか」とまとめられました。また、瀧口先生は、ご自身が当院の泌尿器科医で、留学期も経験されており、家庭と仕事の両立についての体験もお聞かせいただきました。



松成 啓先生

今後直面すると思われる人生の選択である「どこで研修するか」「どの診療科を選択するか」について、ご自身の経験に基づきアドバイスをいただきました。また「初期臨床研修医時代の選択科目をどうするか」について、「早くから経験を積むために自分の目指す専門の科目を選ぶこともいいが、幅広い見地を養うためにも、将来選択しない診療科での研修を積むことも手段」と話されました。救命救急センターからのお話で、途中でコールが来るなど、現場の様子が見え聞きも聞かれました。



花田俊勝先生

外勤先(大分のUSA)から登場された花田先生、これはオンライン開催ならではの、先生が泌尿器科から基礎研究を志す理由や基礎研究の魅力としてワークライフバランスや時間の取りやすさについてお話しされました。深夜まで研究に没頭した時期もあり、「ワーク」に精進があってもいいのではないかと思われ、お話しされました。臨床の視点も活かしながら、基礎医学を研究することの重要性や面白さなど、研究医のキャリアについての質問にもお答えいただきました。

産科婦人科 立山香織先生
産科婦人科においては、診療科の選択、ライフラインへの対応、働く場所の3つに優先順位をつけて思い切って決定することが大事と話された立山先生。また、仕事と家庭の両立には日々夫婦の協力が不可欠であり、表を用いて家事育児の役割分担の取組について紹介されました。忙しくても学校行事に参加でき、かつキャリア継続を可能にしたこととして「夫婦の子育て」「保育園探し、両立保育の充実」「上司や同僚の理解」「世間の固定観念の変化」を挙げられました。

学生によるグループ討論

与えられたテーマとキーワードをもとに学生の作成したシナリオ

<テーマ> キャリア継続、転勤・留学
<キーワード> 若い医師夫婦、夫が米国留学を希望
<作成したシナリオ>
若い医師夫婦、4歳の子供がいる。妻の両親が近くに住んでおり、育児の手伝いをしてくれているため妻はフルタイムで働いている。夫婦ともに専門医を取得している。ある日、夫が米国留学への希望について相談してきた。妻が上司に夫の留学について相談したところ、育中を押ししてもらえないような言葉をかけられた。
<問題点>
・子供の環境が急に変わることへの不安
・そもそも妻が夫について行くかどうか
・妻のキャリアは？
・金銭的な問題、言葉の壁に対する不安
<解決策>
①家族全員で行く
②夫だけで行く
③子供が大きくなってから両親だけで行く
④留学を諦める
<最終と考える解決案と理由>
①家族全員で行く
その理由：子供が小さいうちであれば、異文化に馴染みやすいと思われる。家族で留学する費用も、共働きで貯蓄したり、奨学金を利用することで賄っていく。言葉の壁の問題も考えられるため、英会話教室に通うなどして、準備を進める。妻のキャリアも、日本では学べない知識や手技について学ぶことができると考えれば、逆にチャンスでもある。



ロールプレイ発表の6グループは、シナリオに合わせてグループ全員が登場できるよう夫婦、それぞれの両親、子供、上司、先輩、保育士やナレーションなど多くの配役を設定しました。各自が担当する役割になりきって演技を披露し、別の場所に居ながら同じ場所にいるのと変わらないようなオンラインでのロールプレイを演じました。
代表発表者の6グループは、提出したシナリオの「キーワードから作成したシナリオ」、「提案された解決策について」、「最終とした解決案とその理由」について2分程度で発表し、その後先生や学生からの質問に答えました。

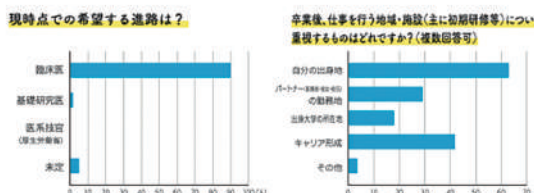


グループごとにロールプレイングをする様子

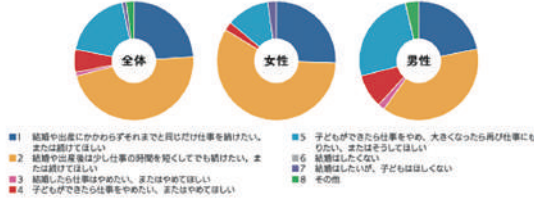
Zoomでプレゼンもお手の物

みんなどう考えている？ 将来のこと、キャリアのこと

講義前に行われたアンケートで、4年生の皆さんの9割は、現時点で臨床医としての将来を画定していました。卒業後の就職先は、自分の出身地のみならず、パートナーとの将来を見据えた勤務地を考えている人もいました。また、出身大学にこだわらず、キャリア形成を優先的に考えた勤務地を検討している人もいました。将来のライフイベントに遭遇した時の仕事の継続について、全体の6割は継続することをイメージしていましたが、3割程度の方はキャリアの中断または仕事をやめざるを得ないのではと考えていることもありました。



あなたは、女性の場合は自分が将来仕事に就きたいか、男性の場合は配偶者が同じ医療人の場合、仕事の継続についてどのような考えをお持ちですか。最も近い番号を1つだけ選んでください。



女性医療人キャリア支援センター 松浦先生より
本年度はコロナウイルスの影響で、例年と違いオンラインでの先輩医師のメッセージやロールプレイという、当初想像もしなかった形式になりました。中川先生の個別な準備と先生方のご協力、また学生さんの柔軟な対応のおかげで、昨年までと変わらない授業が行われたのではないのでしょうか。身体を投入し約5時間の授業の中で、先輩医師からの自分の経験に基づくアドバイスを頂き、またロールプレイによってこれから起こるライフイベントについて考える機会を持たせたいと思います。この授業を、これからのキャリアにぜひ役立ててほしいと強く願っています。ありがとうございました。

4 女性医療人キャリア支援センター概要と運営体制

センター概要

医療現場が働きやすく、やりがいのある環境であることが医療の質の向上にはとても重要なことです。出産・育児、介護といった個人のライフイベントに関わらず、現場でのキャリアを継続するためには、多様な働き方が求められていますが、医療人の長時間労働や過重労働などの課題がまだまだあり、柔軟な働き方を模索している状況です。

こうした中、当センターではこれまで取り組んできた復職支援、キャリアアップ支援を充実させ多様な働き方への理解を広めるとともに、医療人の復職支援に力を入れて参りました。今年度、厚生労働省「令和2年度女性医療職等の働き方支援事業」の委託を受け、本事業を実施するための構築と各機関との連携により地域での課題の抽出、効果的支援を探りました。

女性医療人 キャリア支援センター

Career Path Support Center for Medical Staff

全国施設訪問

相談窓口の設置

意識啓発セミナーの実施

現状問題点の把握

復帰研修プログラム・キャリアアッププログラムの検討

女性も男性も医療人がキャリアを継続し、活躍できる多様性のある職場環境にしていくことにより、病院全体の質の向上、ひいては地域医療への貢献につなげることを目指しています。

センター運営委員

所属・職名	氏 名	備 考
副学長（ダイバーシティ担当） 医学生物学 教授	松浦 恵子	センター長
腎臓内科 病院特任助教	中田 健	副センター長
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 病院特任助教	立山 香織	副センター長
医学教育センター 教授	中川 幹子	
地域医療学センター 教授	宮崎 英士	
薬剤部長	伊東 弘樹	
看護部長	富永志津代	
医療技術部長	宮子 博	
医学・病院事務部長	安部功一郎	
総務課長	牧 尚宣	
経営管理課長	染矢 朋宏	



厚生労働省 令和2年度 女性医療職等の働き方支援事業実施報告書

令和3年3月発行

発行元 大分大学医学部附属病院女性医療人キャリア支援センター
〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地
Tel : 097-586-5715
Mail : carsupport@oita-u.ac.jp

(無断複写・転写を禁じます)



大分大学医学部附属病院
女性医療人キャリア支援センター
Career Path Support Center for Medical Staff